

産地情勢 (2022.12.2)

ブラジル産とうもろこし

ブラジル国家食糧供給公社は 2022/23 年産の生産見通しを 126.4 百万トンに 0.6 百万トン減少した。夏作の作付面積が昨年より 3% 減少したのが主な要因。(11月 10 日)

クロップ カレンダー		作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズン・コーン (夏作)		8-9 月	11-12 月	2-5 月	22%	主に国内飼料需要向
サフリナ・コーン (冬作)		1-3 月 上旬	4 月	6-8 月	76%	輸出を中心 大豆収穫後に作付

ブラジル産大豆

87% (平年 82%) の作付けが完了した。中部の乾燥が懸念材料だが、全体の作付け面積が増えているのが好材料である。(12月 1 日)

ブラジル国家食糧供給公社は 2022/23 年産の生産見通しを 153.5 百万トン (前年 125.5 百万トン) に 1.2 百万トン増加した。(11月 10 日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロップ カレンダー	9 月-12 月初め	1 月	1 月-4 月

アルゼンチン産とうもろこし

作付けは 24% (平年 36%) まで進捗した。乾燥気候や低温で作付けが遅れており、作付面積や単収の減少や大豆への転換が懸念される。1/4 が早播きで、3/4 が遅まきとなる。遅まきの単収は早播きより普通 10-15% 単収が劣る。(12月 1 日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は 2 段階に分かれる。	9-11 月始め 12-1 月	12-1 月 3-4 月	3-4 月 6-7 月

アルゼンチン産大豆

作付けは 19% (平年 40%) まで進捗した。平年より 20% 遅れており、単収の悪化が懸念される。ただし小麦、大麦や早播きとうもろこしからの代替で作付面積は増加する見通し。

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロップ カレンダー	10 月-1 月中旬	2 月	3-6 月

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測（11月9日）

とうもろこし (百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23
米国（9-8月）	358.5	382.9	353.8
ブラジル（3-2月）	87.0	116.0	126.0
アルゼンチン（〃）	52.0	51.5	55.0

米国は2022/23年度の単収は0.4bu/acre回復し172.3bu/acreとなり、生産量が35百万トン増加した。飼料需要は25百万bu増加したが、期末在庫率は8.34%に0.06%回復した。

大豆 (百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23
米国（9-8月）	114.8	121.5	118.3
ブラジル（2-1月）	139.5	127.0	152.0
アルゼンチン（4-3月）	46.2	43.9	49.5

米国は2022/23年度の単収は0.4bu/acre回復し50.2bu/acreとなり、生産量が33百万トン増加した。需要は搾油が10百万bu増加したが、期末在庫率は4.98%に0.44%増加した。

アルゼンチンは2021/22年度が0.1百万トン、2022/23年度が1.5百万トン生産量が減少した。

*北半球の穀物年度は21/22の場合、2021年の月から始まるが南米は2022年の月から始まる。(USDA)